

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 14 日現在

機関番号：32409

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2013～2016

課題番号：25870758

研究課題名(和文)腎移植患者におけるアドヒアランス不良の早期発見・介入のためのツールの開発

研究課題名(英文)Medication nonadherence after kidney transplantation in Japan

研究代表者

小林 清香 (Kobayashi, Sayaka)

埼玉医科大学・医学部・特任講師

研究者番号：40439807

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：腎移植者の免疫抑制剤への服薬アドヒアランスの実態を明らかにするため、インターネット調査を実施した。移植前の透析期間の短さ、複数回の移植歴、仕事をしていること、医療者の説明への満足度の低さ、飲み忘れ時に相談できる医療者がいないことが、アドヒアランス不良に関連する要因として抽出された。さらにグループインタビューを通して、移植者の立場から見た服薬行動の促進・阻害要因を明らかにした。

アドヒアランス不良は、診療場面では明言されにくい。本研究は腎移植者の服薬アドヒアランスの実態と、移植者視点での服薬促進の課題を明らかにし、アドヒアランス向上のプログラム構築の基盤となりうる。

研究成果の概要(英文)：Nonadherence to immunosuppressive medications after kidney transplantation is a major risk factor for allograft rejection and graft loss. We conducted an internet-based cross-sectional survey and focused group interview aimed to clarify the prevalence and risk factors of patient nonadherence after kidney transplantation in Japan.

A total of 219 kidney transplant recipients were included in the analysis of internet-based survey. Ninety-four demonstrated nonadherence (42.7%). The following factors were associated with nonadherence: short dialysis period prior to transplantation; undergoing transplantation at least twice; having employment; lack of satisfaction with the explanation of immunosuppressive medication; absence of a medical staff to consult upon forgetting to take drugs. This anonymous survey provides valuable insight into the actual nonadherence rate, factors associated with nonadherence, and life situations that may complicate medication-taking.

研究分野：ソーシャル・リゾン心理学

キーワード：腎移植 アドヒアランス インターネット調査 インタビュー調査 セルフエフィカシー 服薬行動

1. 研究開始当初の背景

腎移植患者の免疫抑制剤へのアドヒアランスは移植腎の生着に多大な影響を与える。内服中断によって移植腎機能が低下して入院が必要となるような重大なアドヒアランス不良 (Midhelon et al., 2002) のみならず、時折生じる飲み忘れも中長期的な腎機能低下に影響する (Vlaminck H et al., 2004)。死体移植待機期間が長く、生体移植が大半を占める等、欧米とは大きく事情の異なるわが国では、これらを鑑みて日常的な飲み忘れ対策を含めて、独自のアドヒアランス対策を立てることが必要である。しかし、我が国における腎移植者の服薬アドヒアランスの実態は把握されておらず、関連する要因の分析や介入方法の策定もほとんど行われていない。

2. 研究の目的

本研究では(1)腎移植者への WEB アンケート調査(研究(1))による、移植患者のアドヒアランスの実態把握、(2)腎移植患者への面接調査(研究(2))によるアドヒアランス不良に至る要因と対策の詳細な分析を行う。

3. 研究の方法

研究(1)

対象 腎臓移植を経験したと申告し、調査実施時点で 20 歳以上の者

調査項目 背景情報：年齢・性別・就労・婚姻・精神科受診歴・移植経験回数・ドナー続柄・移植時年齢・糖尿病の有無・通院時間・透析経験・免疫抑制剤の種類および錠数等 免疫抑制剤のアドヒアランス尺度 (The Basel Assessment of Adherence to Immunosuppressive Medication Scale ; BAASIS):原著者の許可を得て翻訳して使用 服薬困難となる状況での服薬に対するセルフエフィカシー：先行研究、移植者および移植に関与する医療者の検討を経て作成

主治医および医療者との関係に関する質問：先行研究を参考に作成

調査時期 2016 年 2 月の 2 週間

調査方法 腎移植患者を対象とした情報提供サイトにて、インターネットアンケートを行った。移植に関連する医療機関、移植患者会、メーリングリスト等で広報を行った。調査対象者は当該サイトにアクセスし、研究に関する説明文書を読み、協力に同意したうえで回答を行った。

研究(2)

対象：研究 1 の対象者のうち研究 2 への協力の意思が示された者の中で、改めて研究 2 への研究への協力依頼を行い、説明を経て同意の得られた者。

調査方法：インタビューガイドに沿ってフォーカスグループインタビューを行った。4-5 名のグループを 2 グループ実施した。インタビューは移植医療に関わった経験のある臨床心理士 2 名が行った。

分析方法：インタビュー内容は録音したうえで逐語に起こし、質的分析を行った。

倫理的配慮：本研究は倫理委員会の承認を得て行った。

4. 研究成果

研究(1)

対象者：220 名の移植経験者から回答を得、既に透析中の 1 名を除いた 219 名を解析対象とした。126 名が男性、平均年齢 48.3 ± 9.5 歳、移植時年齢 41.7 ± 11.2 歳、移植からの経過期間 79.1 ± 79.2 か月、透析導入前移植 40 名 (18.3%)、生体移植が 88.7% を占め、半数のドナーはレシピエントの親であった。

アドヒアランス不良の実態：BAASIS において、過去 4 週間で「1 錠でも服薬し損ねた (17 名, 9.1%)」、「2 時間以上服薬時間がずれた (86 名, 39.2%)」となり、94 名 (42.7%) がアドヒアランス不良群となった。

アドヒアランス不良に関連する要因：多変量

解析を行った結果、移植前の透析期間の長さ、2回目以上の移植歴であること、仕事をしていること、免疫抑制剤に関する医療者の説明への満足度が低いこと、飲み忘れ時に対応を相談できる医療者がいないと捉えていることがアドヒアランス不良に関連する要因として抽出された。

アドヒアランス不良の生じやすい状況：「寝坊などで生活リズムが乱れたとき(113名, 51.6%)」「何かに熱中しているとき(110名, 50.2%)」「出張や旅行でリズムが変わるとき(97名, 44.3%)」の順で、薬をきちんと飲む自信がないと答える割合が高く、いずれの項目もアドヒアランス不良群でその割合が高かった。

研究(2)

対象者：アドヒアランス不良、アドヒアランス良の双方を含む9名の協力を得た。

分析結果：腎移植者の免疫抑制剤服用を促進する要因、阻害する要因について抽出した。

結論：アドヒアランス不良は腎移植者の42.7%にみられた。アンケート調査およびインタビュー調査を通して、アドヒアランスに関連する要因が明らかとなった。特に医療者との関係や就労状況に合わせた服薬の工夫の必要性など、修正可能な要因が示された。これらの要因にそったアドヒアランス不良対策の実践が求められる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計4件)

1. 小林清香・西村勝治：腎移植後の深刻な心理的問題と精神疾患 特集：サイコネフロロジーUpdate. 腎と透析 82(2)266-269, 査読無 2017

2. 小林清香：移植チームと精神科チームの連携 術前から術後のフォローまで 特

集：臓器移植をめぐるリエゾン精神医学の臨床. 精神科治療学 32(2), 237-241, 査読無 2017

3. 小林清香・西村勝治 臓器移植における心理職 精神科治療学 31(9), 1199-1202, 査読無 2016

4. 小林清香・西村勝治：薬剤アドヒアランスの向上. 腎と透析, 76 増刊号「透析・腎移植のすべて」, 466-468, 査読無 2014

[学会発表](計2件)

1. 小林清香・岡部祥・筒井順子・石田英樹・西村勝治：免疫抑制剤の服薬行動に影響する要因の検討. 第50回日本臨床腎移植学会総会 2017.2.16 神戸

2. 小林清香・岡部祥・石田英樹・筒井順子・菅原裕子・西村勝治：腎移植者はどのような時に薬を飲み損ねやすいのか? 第27回サイコネフロジー研究会 2016.7.10 東京

[図書](計 件)

[産業財産権]

出願状況(計 件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6．研究組織

(1)研究代表者

小林 清香 (Kobayashi Sayaka)

埼玉医科大学・医学部・特任講師

研究者番号： 40439807

(2)研究分担者

()

研究者番号：

(3)連携研究者

()

研究者番号：

(4)研究協力者

()